

令和4年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅲ 【 進路指導の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
<p>○進路指導担当者及びクラス担任が学生の希望に沿った相談指導（就農、就職、進学）を行いながら、農業の良さを知ってもらうための講座、面談会、実習等を実施し、就農者の確保を図っている。また、雇用就農については茨城県農林振興公社と連携して個別相談会等を実施しているが、過去5か年の就農率は53.8%と学生の約半数に留まっている。</p> <p>○入学時には就農を目指しているが、卒業時には就農ではなく関連企業や他産業に就職する学生がいる。</p> <p>○果樹関係の求人がほとんどなく、果樹コースの学生にとっては、雇用就農を希望しても就農先が無い状況である。</p>	<p>○内部の就農支援体制を強化したうえで、茨城県農林振興公社及び担い手が不足している産地等と連携して効果的に就農支援活動を実施し、就農率の向上を図る。</p>	<p>就農率の向上</p> <p>就農率 60%以上</p>
<p>○進路に関する意識が低い学生や、年末や年明け後に初めて就職活動を開始する学生がいる。</p> <p>○年度末になっても進路が決定せずに、そのまま卒業してしまう学生もおり、過去5か年の進路決定率は98.0%となっている。</p>	<p>○早い段階から進路に関する意識づけを行い、学生の希望に沿った進路指導を実施し、進路決定率の向上を図る。</p>	<p>進路決定率の向上</p> <p>卒業時進路決定率 100%</p>

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

(1) 就農率の向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準
就農率 60%以上	B	<p>2年生59人のうち34人の就農が決定し、就農率は57.6%（3/20現在）となり、目標達成率は96.0%となっている。</p> <p>2年生担任と進路担当が連携して学科・コースごとに目標を設定し、就農率向上に取り組んだ。個別面談を実施し学生の希望する地域や品目に応じた農業法人等の情報提供を行い、面談後は伴走支援を実施したことで、就農につなげることができた。</p> <p>なお、今年度は農外からの農業参入企業へ2人、福祉関連企業の農業部門へ1人など新たな企業へ就農する学生も見られた。また、就農ではないが農家への人材派遣企業へ1人が就農することになり、その1人を含めると就農率は59.3%となり、概ね目標に達することができ、卒業生の過半数を農業に従事する人材として育成することができた。</p>	<p>目標にはやや届かなかったものの、農林振興公社等と連携して農業者と学生をマッチングして、<u>法人等への雇用就農支援</u>を推進できたことは評価できる。</p> <p>果樹産地と連携した就農促進の取組は、<u>他の品目の産地</u>にも波及させ、取組を広げてほしい。</p> <p>B評価は適当である。</p>	<p>A 100%達成</p> <p>B 80～99%の達成</p> <p>C 60～79%の達成</p> <p>D 40～59%の達成</p> <p>E 39%以下の達成</p>

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果 ※（ ）内は前年度実績	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【充実】内部の情報共有と就農支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科及びコースの就農目標を設定する。（4月） 情報の共有化及び就農支援に対して共通認識を持って取り組むため、進路指導委員会を定期的に開催する。（4回/年） <p>・推薦入学者の当初目標（就農）を維持するよう支援するため、進路変更者に対し進路変更理由の調査を実施し、次年度以降の支援方法を検討する。（12～2月）</p> <p>イ【継続】茨城県農林振興公社等との連携による雇用就農支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内農業法人の求人情報を学生に提供する。（随時） 農業参入等支援センターと連携し、他産業から農業へ参入した 	<p>ア【充実】内部の情報共有と就農支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路担当及び2年生担任で構成する進路指導委員会3回（6/30、8/3、2/8）を開催し、今年度の支援内容について情報を共有し支援を実施した。また、各担任が目標を持ち支援を実施するように、各コースで就農率目標を設定した。 <コースごとの就農率（ ）は目標> 普通作 68.8%（68.8%）、露地野菜 66.7%（64.3%）、果樹 71.4%（57.1%）、畜産 60.0%（60.0%）、研究科 0%（66.7%）、花き 40.0%（20.0%）、施設野菜 45.5%（72.7%） 進路変更者（1/26現在5人：農業への派遣会社に就農した学生除く）に対しアンケート調査を実施した。 <p>イ【継続】茨城県農林振興公社等との連携による雇用就農支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 茨城県農林振興公社と連携し県内の農業法人等の求人（求人数130法人：農林振興公社100法人前後/月+他農業法人等30人） 	<p>ア 内部の情報共有と就農支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林振興公社を交えた個別相談会の開催など、農業部と園芸部で実施する支援内容が異なる部分があるので、4月にそれぞれの取組内容を再確認し、内容や時期など支援策をできる限り共通にし、学生への支援体制を強化する。 <p>イ 茨城県農林振興公社等との連携による雇用就農支援</p>	<p>・茨城県農林振興公社等と連携して、さらに<u>法人等への雇用就農支援</u>の取組を推進してほしい。</p>

<p>企業情報の収集と学生への求人情報提供を行う。(随時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営士等との意見交換会を開催し、就農意識を醸成する。(3回：5、6、12月) ・合同就農促進講座・就農相談会(プレ農業人フェスタ)や新農業人フェア、就農・就職セミナー等において、農業法人への理解促進及び就農希望者と農業法人とのマッチングを実施する。(4回：6、7、12月) ・プレ農業人フェスタでの法人との面談が、長期派遣実習やその後の雇用就農等につながるよう、フェスタ開催時期を前倒しする。(6月上旬開催) ・農家及び農業法人への校外学習等現地研修会を実施する。(随時) ・農林振興公社と連携し、雇用就農希望者に対する個別相談会を実施し、伴走支援を実施する。(5回：6、7、10、11、12月) ・長期派遣実習の受入農家の選定支援や受入農家への就農を支援する。(6月～11月) ・【継続】就農に向けた体験研修(インターンシップ等)を支援する。(随時) ・新たな就農事例をHPに掲載する。(3事例/年) <p>ウ【継続】市町村、地域就農支援協議会[※]等と連携した自家就農及び新規参入への支援</p> <p>※地域の農業担い手確保・育成のため、農業改良普及センター、市町村、農業委員会、JA、農業者などで構成された組織。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自家就農及び新規参入就農希望者に対する研修会を開催する。(12月) ・農林振興公社や地域就農支援協議会等が実施している体験研修等の情報を提供する。(随時) ・新規参入就農を希望する学生に農場見学会の開催情報等を提供する。(随時) 	<p>及び他産業からの新規参入企業4社の情報を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用就農を支援するため、茨城県農林振興公社と連携し、農業三士等からの講話や意見交換会(5/12講話(農業経営士)、6/3意見交換(農業経営士2人、女性農業士2人、青年農業士3人))を実施し、農業の良さや現状を学生に知ってもらうとともに、雇用を求めている農業法人等との面談会を実施し、学生が農業法人等と直接話す機会を持った。 ・プレ農業人フェスタ等に出展した農業法人等とのマッチング会の実施や参加により、長期派遣実習や就農につながる事ができた。 <ul style="list-style-type: none"> ＜長期派遣実習を行った学生数＞ 6/3：11人(8農業法人)、7/5：1人(1農業法人) ＜長期派遣実習受入農家にそのまま就農が決まった学生＞ 9人(農業部7人、園芸部2人) ＜出展法人へ就農が決まった学生数＞ 6/3プレ農業人フェスタ：12人(7法人、1/17現在) 7/5就農就職セミナー：2人(1法人、1他産業からの農業へ参入した企業) ※現在1人が他産業から農業へ参入した企業に就活中 ・農業法人等での現地研修会(果樹(4農家)、畜産(4農業法人、1農家、1担い手組合)、園芸部(1農家)、研修科(4農業法人、3農家))を実施した。 ・6、7月はイベント時に農林振興公社の出展ブースを設け学生に就農情報等を提供した。また、10/21、25に進路未確定で雇用就農希望者(農業部2年14人)に対する個別相談会を実施した。面談後も個別に伴走支援を実施し、就農を支援した。 <ul style="list-style-type: none"> ＜面談後の就農者数＞ 面談者の進路：就農8人、他産業から農業へ参入した企業等3人、農業への派遣1人、就農外2人 ・長期派遣実習(農業部：8/23～9/22 41人：受入農家38戸、園芸部：10/19～11/18 16人：受入農家16戸)や就農希望先での農家研修等の支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ＜就農希望先での体験研修(農林振興公社と連携)＞ インターンシップ等実施学生数 延べ16人 農業校外短期派遣実習 農業部1年10人 ・3/8に就農を目指す学生を確保するためHPに卒業生の就農事例集(3事例(新規参入、親元、雇用就農))を掲載した。 <p>ウ【継続】市町村、地域就農支援協議会[※]等と連携した自家就農及び新規参入への支援</p> <p>※地域の農業担い手確保・育成のため、農業改良普及センター、市町村、農業委員会、JA、農業者などで構成された組織。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/20に自家就農及び新規参入希望者に対する研修会を実施し学生10人(自家就農6人、将来新規参入希4人：うち1人1年)が参加し就農後の経営ビジョン作成手法を学んだ。 ・農林振興公社や地域就農支援協議会等が実施している農場見学会の情報を3回(8/24、9/10、11/12：参加学生無し)提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が焦らずに、一つダメでも次へ次へと進路活動に取り組めるよう、雇用就農希望者に対する個別面談とその後の伴走支援について、もう少し早い時期に実施する。 ・就農志向の学生確保につながるよう、就農事例の掲載時期を推薦入学試験前に早める。 <p>ウ 市町村、地域就農支援協議会等と連携した自家就農及び新規参入への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自家就農研修会で実施した経営ビジョン作成は、1回の研修会では時間が足りない学生も見受けられるため、2回(11～12月)の開催を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人への就職が増えている中、学生が人と話す能力向上は大事なので、自家就農と同様に力を入れて欲しい。 ・長期派遣実習は、学生が農業者から直接話を聞くことができ、就農についての理解を深める機会になることから、進路を意識した派遣先農家の選定をしてほしい。 ・1年生の早期に実施される短期派遣実習は、非農家出身の学生が農業や農家生活に触れ、就農に向けた動機づけとして重要な機会であることから、趣旨を十分理解した派遣先農家を選定してほしい。
---	--	---	--

<p>エ【新規】担い手確保を目指している果樹産地との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果樹産地（地域就農支援協議会等）と連携し、産地の担い手受入や雇用等の情報を収集し、産地見学会や体験などの情報を提供する。（随時） 	<p>エ【新規】担い手確保を目指している果樹産地との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/29に行われた、J A北つくば管内における「産地研修及び意見交換会」に学生 25 人（農業部果樹コース 8 人、園芸部 17 人）が参加し、産地農家での意見交換を行った。また、2 年生 1 名が長期派遣実習を実施し、そのまま就農に繋がった。 <p><産地への就農者数></p> <p>1 人（長期派遣実習農家（梨農家）へ、そのまま就農）</p>	<p>エ 担い手確保を目指している果樹産地との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに雇用就農希望者の選択肢を増やしていくため、他の品目や他産地等との連携強化を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹以外の品目でも展開してほしい。産地と連携した就農促進は注目に値する取組である。果樹でモデルづくりをして、さらに他の品目にも広げるなど取組の広がりを期待する。今後も効果的に取り組んでほしい。
--	--	---	---

(2) 進路決定率の向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準	
卒業時進路決定率 100%	B	<p>2 年生 59 人のうち進路決定者は 58 人であり、進路決定率は 98.3%（3/20 現在）となっている。</p> <p>三者面談、進路希望調査を実施し、担任を通じて希望に応じた進路の情報提供を行い、進路未決学生に対して危機感を持ってもらうためコースごとの進路決定者数などの掲示を行い、進路活動を促進した。進路未定者 7 人は、現在就活中であり、今後進路が決まると見込まれる。</p> <p>一方、1 年生に対しては、早い段階から進路活動に対する意識を持ってもらうよう、就職セミナー等を開催し、就農等進路活動に関するスケジュールの説明を行っている。</p>	<p>先生方の努力が見える。プレ農業人フェア等の機会を活用するなど、さらに進路決定率を高めてほしい。</p> <p>B 評価は適当である。</p>	A	100%達成
				B	80～99%の達成
				C	60～79%の達成
				D	40～59%の達成
				E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果 ※（ ）内は前年度実績	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】早い段階からの就農、就職意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人企業への確認及びインターネット情報の収集により、学生が希望する業種の求人情報を提供する。（随時） ・進路未決定者に対する就活意識を啓発するため、進路決定者を掲示する。（10 月～） ・保護者を含めて進路希望の確認を行うため、3 者面談を実施する。（6 月～） ・学生の希望に応じた支援を行うため、進路希望調査を実施する。（進路希望調査：1 年生 4、11 月、2 年生 5、10 月） ・学生の進路進捗動向を把握し、適切な進路指導を実施するため、就農・就職進路進捗調査を毎月実施する。（6 月～） ・ハローワークによる就活に向けた研修会を開催する。（6 月） ・当校に求人があった企業等とのマッチング会を開催する。（2 回：6、7 月） ・進路未決定者への個別相談を実施する。（随時） 	<p>ア【継続】早い段階からの就農、就職意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当校に求人情報を提供して頂いた企業の求人情報（55 社：農業法人等含む）の掲示や学生の希望職種等に応じた情報提供を、担任を通じて実施した。また、企業への応募申込期限が早い情報は、掲示以外にオンライン（Webex）を利用し周知を行った。 ・進路未決定者に対し進路に対する危機感を持たせるため、農業部のコースごとに、進路決定者人数と進路決定先の掲示を 11 月から（農業部のみ）実施した。 ・進路について保護者の意見も確認するため、三者面談（農業部 2 年生 41 人（6～7 月）保護者 30 人、園芸部 2 年生 16 人（10/3）保護者 16 人）を実施した。 ・学生の希望に沿った進路の支援を行うため、学生の進路希望調査（農業部 2 年生：6/2、10/3、園芸部 2 年生：6～7 月）を実施した。 ・6 月から担任を通じて月 1 回の進路進捗確認を行い、学生個々の動きを確認した。 ・ハローワークによる就活セミナー（農業部 6/3：1、2 年生全員）を実施した。また、2/22（農業部 1 年生）に再度実施を予定している。 ・6/3 に農林振興公社と連携しプレ農業人フェスタ（出展法人 32 社、学生全員参加）、7/5 に就農就職セミナー（出展企業 26 社、参加学生 30 人）を開催し、企業等とのマッチング会を実施した。 ・長期派遣実習終了時（10/3）に進路希望調査を実施し、まずは雇用就農希望の進路未決定者に対して、個別面談を実施（10/21、25：農業部 2 年生 14 人）し、伴走支援を実施し進路決定につなげた。 <p><個別面談実施後の進路決定者数></p>	<p>ア 早い段階からの就農、就職意識の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職活動開始時期が遅い学生が毎年見受けられるため、学生の就活に対する意識を早い段階から高める取組を実施する。 ・1 年次からの意識を高め、2 年次に向けた就農先等の選択肢を少しでも増やしてもらうため、1 年次の選択授業である「校外農業短期研修」を周知し、短期派遣実習以外にも農業法人や農業関連企業等を体験する機会をつくる。 また、関連企業等の見学についても、1 年次から積極的に会社見学等に参加するよう、学生への周知と職員の意識を高める。 ・農業部のみでの開催であったため、園芸部でも 5～6 月に就活セミナーを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次からきちんと情報を伝えて目標を持たせることが大切である。 ・引き続き、プレ農業人フェスタなどマッチングの機会を活用し、進路決定率を高めてほしい。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期の進路決定や意識啓蒙を図るため、1年生に対し就職セミナー3回（6、7月）、進路希望調査3回（4、11月）を実施する。 ・ 就職が決定した2年生の助言による研修会を開催する。（1月） ・ 次年度以降の進路指導に活用するため、就職者及び進学内定者から試験内容等の情報を受領する。（随時） 	<p style="text-align: center;">12/14 人（残る2人中1人は他産業からの農業へ参入した企業へ就活中、1名は進学予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生が早期から進路への意識を高めてもらうため、各種セミナー等（6/3、7/5：農業法人等とのマッチング会、12/12、13：農業三士との意見交換及び個別面談）への参加や進路希望調査（農業部、園芸部 4月、11～12月）を実施した。また、1/5に就農等に係るスケジュールについての説明（農業部）も実施した。 		
---	---	--	--